

五行歌

秋 山 昭 子

(藤沢日曜歌会)

障子の隙間風で

カラカラ カランと

風鈴が涼しげに鳴る

声こゑがするような

亡母ははの置き土産

浅 野 征 子

(藤沢火曜歌会)

心のつぶやき

言の葉にして

書きつづる

五行詩歌は

心の整理箱

新 井 奈々草

(藤沢日曜歌会)

散歩途中で

無人販売の蕪2束

リュックに背負い

「大株主になったよろしー！」

夫おれの一言

飯 田 敏 一

(藤沢火曜歌会)

京都嵐山界限を行けば

修学旅行生でワイワイガヤガヤ

わがグループは

終活旅行でノロノロダラダラ

若さつて羨ましい

石川 トシ

いわき やすお

名前の由来など

どうでもよござんす

女郎花

ツンとすまして

空を見る

(藤沢日曜歌会)

(藤沢火曜歌会)

石松 いさを

牛島 芳一

(藤沢日曜歌会)

(藤沢火曜歌会)

持つて生まれた

人間の業を

私も

一生背負って

歩いて行く

音もなく銀河は巡り

姿もなく時は過ぎ去る

青い秋の空に重さはない

定めのない人生だけど

楽しく生きよう

夕焼け茜雲

アンダンテの

リズムで歩く散策

秋風と

親しみながら

遠藤 由里

(藤沢日曜歌会)

先生

お願いです

手術の最中に

アッ！って

言わないでください

緒方 真子

(藤沢日曜歌会)

もう

身の丈で

生きよう

ハイヒールよ

さようなら

岡本 まさ子

(藤沢日曜歌会)

引いているのか

満ちているのか

さだかではない

干潟の潮よ

わたしのころよ

小原 美子

(藤沢日曜歌会)

空をみあげると

鳥達がとぶ

子供達の笑顔のために

この青空を

届けてあげたい国がある

菊池敬子

軒下に干柿いっぱい

丁寧な夫が皮をむく

私のむき残しもむく

こんなデコボコ夫婦

だからもつてるのね50余年

(藤沢火曜歌会)

桑原耐子

出逢った数だけ

豊かになる

心も

知識も

あなたのもの

(藤沢日曜歌会)

黒木允

斎藤絹美

「座右の銘は」と

教え子達は聞く

「少欲知足」と胸はったが

その胸には入っていた

「七億円の宝くじ」が

(藤沢日曜歌会)

もの忘れ

多くなりたる

この頃よ

助けておくれ

私の頭脳

志 津

(藤沢日曜歌会)

きれいに飾り立て

「お帰りなさい」と

手を合わす

答えるかのように

揺れる線香の煙

草 庵

(藤沢日曜歌会)

逝き方も

お人柄

首相

女王

芸人

鈴木 春 野

(藤沢火曜歌会)

いつでもどこにも

子供達の笑顔と

笑い声が溢れるように

それは国の、大人の責任

溢れ咲く雪柳を見ながら思う

寺 田 篤 弘

(藤沢日曜歌会)

今日は老人を休もう

砂の城を作ろう

波と遊ぼう

ソフトクリーム頬張ろう

夏の海は真つ青だ

西田 明子

ゴミ出しの日に特に思う

(藤沢火曜歌会)

暮しの基盤となる

職種に携る人達に

感謝、感謝で

心から有難う

蓮村 詳子

高級魚に昇格した

(藤沢火曜歌会)

秋刀魚には

尾ひれを立たせた

化粧塩が

良く似合う

橋本 圭子

ひろこ

(藤沢日曜歌会)

(藤沢日曜歌会)

ザクザクザック

今朝の霜柱は

豪勢！

大判小判を

踏む心地

散歩道の金木犀

開花三日で

散り敷いて

今年も秋は

足早に行く

松岡雅子

空を飛ぶのは

優しいものがない

花びら 雲 小鳥たち

固くて辛いものは

飛ばしてはならない

(藤沢日曜歌会)

茂木知恵子

怒ってるの？笑ってるの？

それとも

マスクの上の目を探るけど

わからない

心にもマスクしてるのかな

(藤沢日曜歌会)

松本希雲

孫みたいな

トレーナーさんに

足腰のストレッチ体操を

童心に戻って

楽しく受ける

(藤沢日曜歌会)

山口博子

うつかり踏んだ

蟬の亡骸

草むらに寄せる

せめてもの風葬

そこはかと・・・秋

(藤沢火曜歌会)

横
山
礼
子

(藤沢日曜歌会)

夏草に埋もれ
忘れ去られた
古の伝承の石に
手向けられた心が
供養となる